

トップ経営体育成支援事業導入による経営改善

農業技術センター横浜川崎地区事務所

実施期間:平成29～令和5年度

課題・目標

■横浜市内の露地野菜農家から課題解決の要望があり、持続可能な農業経営の実現を目指した。

＜具体的な課題＞

①作付面積の拡大、②主要作物(バレイショ及びダイコン)の売上げ増加、③バレイショ生産の労力軽減・生産拡大と品質向上、④ダイコン生産の病害虫対策と優良品種の導入⑤雇用労力の導入

活動内容

■＜H29～30年度＞農家から経営改善に向けた相談を受け、H30年度の「かながわ農業版MBA研修」を勧めて、研修課題である「経営強化プラン(横浜で持続可能な農業の実現を目指す)」の作成に対して助言した。

■＜R1年度＞経営強化プランの具現化に向け、バレイショの施肥改善とダイコンの優良品種導入について、3カ年の計画的な支援を開始した。

■＜R2年度＞バレイショ用の機械(植付機、収穫機、選別機、保冷库)導入の補助金申請を支援し、ダイコンの線虫対策として対抗植物(ヘイオーツ)導入を指導した。

■＜R3年度＞ダイコンの病害診断と防除対策を実施した。



バレイショ選別機

具体的な成果

■バレイショ生産では、植付機と収穫機の導入により労力が軽減し、施肥改善(元肥一発型肥料の導入)により省力化と品質向上が実現した。また、選別機(内部障害検査装置)の導入により中心空洞のクレームが解消した。さらに、保冷库の導入により出荷期間の延長と品質保持が可能となった。

■ダイコン生産では、作付け品種の見直し、線虫対抗植物(ヘイオーツ)の導入及び病害(わかか症)対策により品質が向上した。

■事業導入前と比較して、令和5年度には経営面積は160a→195aに拡大し、常雇用は2名導入、農業所得は約1.7倍に増加した。